

協働学習を活性化，深化させる放送学習の取組

山口県下松市立公集小学校 教諭 浅村 芳枝

小学校3～6年 音楽科 おんがくブラボー！

番組の特徴

楽器の基本的な演奏の仕方や歌い方のコツ，音楽づくり，楽曲の鑑賞の仕方について，楽しみながら学ぶことができる番組である。出演者が楽しそうに考えを伝え合ったり，演奏したりしているので，子どもにも音楽への興味をもたせることができる。

研究の概要

リズムアンサンブルづくりでは，リズムの重ね方のみに目が向きがちである。そこで，番組を活用し，子どもに新たな視点をもたせたいと考えた。具体的には，番組視聴によって既習の音楽の仕組み以外の工夫に気付かせてから曲づくりに入った。その際，思考ツールを用いて曲のイメージを可視化することで，グループ全員で共通理解を図りながら曲づくりについての話し合いを深めることができた。

授業デザイン（1 単位授業時間）

単元：リズムで音楽づくり

目標：音の重なりを試しながら，音楽の仕組みを使って，リズムアンサンブルをつくることことができる。

導入	6種類のリズムや音楽の仕組みを想起する。
課題把握	「音楽の仕組みを生かして，リズムアンサンブルをつくろう」
番組視聴	第5回 リズムで音楽づくり
情報整理	番組を見て気付いた工夫を確認する。
協働解決	<p>1 どのような曲にしたいか話し合う。 ★思考ツール(イメージ図)</p> <p>2 思い描いた曲になるように，音楽の仕組みを使ったり，強弱を考えたりしながら，3つのリズムを組み合わせる。</p> <p>3 音を出して確かめながら，イメージしたようになったかどうか確認・修正していく。</p>
まとめ	イメージ図を予想し，数グループの曲を聴く。

番組や関連動画クリップの活用意図

課題解決の新たな視点を得るための番組視聴

番組視聴を通して，子どもが課題解決における新たな視点を得ることができるようにする。この回では，教科書で学習する音楽の仕組みに加え，リズムアンサンブルをよりよくするための工夫である「強弱」に気付かせるために番組視聴をした。

授業デザインにかかわる教師の工夫

共通理解を図るためのイメージ図

どのような曲にしたいのかということグループのメンバーで共通理解できるように，直線の傾きで曲の盛り上がり表現するようにした。

話し合ったことが生かせる構成図

イメージ図の下に配置し，なんとなく音を重ねるのではなく，こんな曲にしたいという思いに合わせて音楽の仕組みを使ったり，強弱を付けたりすることができるようにした。3つのパートを異なる色の付箋紙で表し，話し合ったことを図にすぐに表現したり，修正したりすることができるようにした。

次時の学習への意欲をもたせるまとめ

イメージ図を予想して他グループの曲を聴かせることで，ワークシート上に表現したイメージが伝わるようにもっと練習し，発表したいという次時の学習への意欲をもたせることができた。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 番組で強弱をつけて演奏していたので分かりやすかった。
- 最初は悩んだが，イメージ図から考えるととても楽しく，早くリズムアンサンブルがつくれた。

評価シートから（実践前後で有意差が見られた10項目〈全13項目〉より抜粋）

- 授業に集中して取り組むことができる
- じっくりと考えて，自分の考えを深めることができる。
- 自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる。
- グループでの学習に，進んで参加することができる。

同僚の評価

- イメージ図を用いることで，盛り上がりや強弱を意識して曲をつくったり，演奏したりできていた。とても有効な手立てだ。

実践を終えて〈行動宣言〉

番組視聴を通して，強弱をつけるという新たな課題解決の視点を子どもにもたせることができた。イメージ図を活用し，曲のイメージを共通理解することで，思い描くリズムアンサンブルするための積極的な話し合いができた。その結果，自分達の思い描いたイメージが伝わるように作った曲を発表するという次時のめあてがもてた。今後も，番組で見つけたコツを使ってグループで歌の練習をするなど，番組を生かした協働学習を実践していきたい。